



ちょっとの気くばり 思いやり

次長 目崎 淳

さて、初めてこの欄を担当することになりました。せっかくの機会ですので、先月まで裏面に載せていたことを書くことにします。

梅雨に入りました。今年は例年よりも遅めの入梅だそうです。(これを書いている日は梅雨とは思えないほどの好天ですが…。)雨が降ると、誰もが傘をさします。私もさします。小雨で傘をさすのを迷うこともあれば、土砂降りですすしかない状況もあります。



さて、学校がある日は、初等部生をはじめ、中・高等部生や一般の方が鎌倉女子大前のバス停で下車します。朝、私が見ていると、多くの児童・生徒は「ありがとうございました」と運転手さんに伝えて下車しています。(もちろん時節柄、声の大きさは控えめのお子さんも多数いらっしゃいます。)

そこまでは、とても素晴らしいのです!! さすが初等部生! さすが鎌倉女子大学の一員です。しかし、雨天の日は、なかなかそう褒められる状況でないこともあります。そこで、次のような質問をしたとします。どのような光景を思い浮かべますでしょうか。

バスをおりようとしたら、雨が降っています。こんなとき、みなさんは、どのようにバスからおりますか。

もし手に傘を持っていたら、雨に濡れたくないでしょうから、すぐに傘を開くと思います。私も、きっと開くと思います。車内では周囲の人たちに迷惑をかけないように、傘をくるくると丸めてたたんでいたものをほどこしながらバスからおります。時間帯によっては、乗車している大半の人が、学園に關係する人だったということもあるでしょう。すると、

次から次へとバスからおりねばなりません。あるいは、早く学校に行きたい! 教室に入りたい! 育てているアサガオや野菜の成長を早く見たい! という人は、すぐにでもバスからおりて正門に向かっていくでしょう。

私がバス停でバスを待つ側の立場から登校時の様子を見守っていると、大人と子どもでは傘の開き方が大きく異なるようなのです。中学生をはじめとした大人は傘を上に向けて開くのに對して、子どもは正面を向けて開こうとする子が見られたのです。一見、これは自然な傘の開き方の流れ(下車前に傘を開こうとするので、上を向けて開くことができないのかもしれませんが。)のように感じますが、実はこれが極めて危険な場合があるのです。

それは、女子大前のバス停は思っている以上に幅が狭く、下車したすぐ前に乗車待ちのお客さんが多数待っていることがあるからです。正面を向けて開こうとする方法は、実はバスを待っているお客さんに向けて傘を開くということになってしまうのです。そうならないためにも、下車後に何歩か進んでから傘を開くと良いと思います。



さて、初等部では、お子さんが安心して**この児童は上手でした**通えるように、さまざまな努力をしています。公共交通機関を利用して登校する児童が大半を占める初等部では、登下校のマナーについて、日頃から指導しています。バス停での並び方、バスの乗り降りの仕方、歩道の歩き方など、自分や仲間そして周囲の方すべてが安全に生活することができるように折々を見て話をしています。これらのことは、初等部生がこれから成長し、大人になった時にも通用する「マナー」となります。「マナー」とは、お互いが気持ちよく過ごすための心づかいです。素敵なマナーを身に付けた初等部生になれることを願っています。